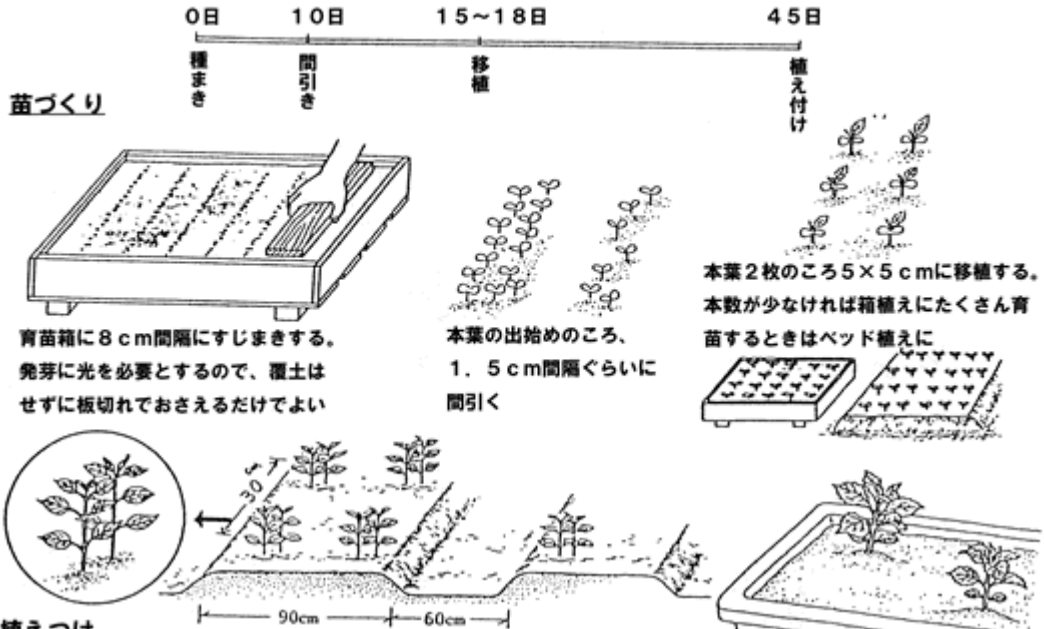


シソの栽培方法

芽・葉・穂シソの形で薬味や料理のつまとして欠かせない日本の香辛野菜の代表。特有の香りは強い防腐作用があり緑の葉はビタミンAの宝庫でもある。

葉シソ



植えつけ

本葉4~5枚のころ
1か所2本植えとする

肥料
元肥 1アール(100㎡)当たり
堆肥 200kg
化成 10kg

定植前にうね全面にうない込む

収穫

草丈40cmぐらいに伸びたころから、下葉から順次つみとして利用する

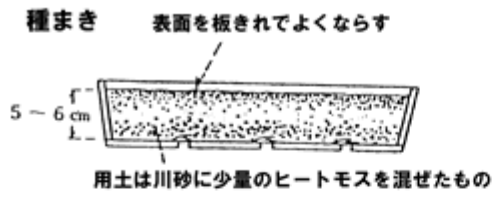
穂シソ
シソの実
花

穂シソの収穫
花穂が伸びて数花咲いたころつみとる

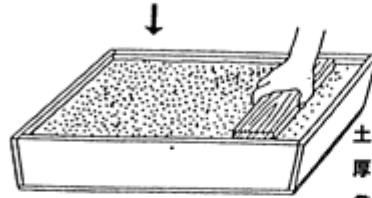
8~9月になると穂が出てくるので穂シソとして、10月ごろ実ってくればシソの実として利用する

花穂をそのままにしておくと結実するので収穫し、塩漬けなどに利用する

芽シソ



シソは好光性種子なので覆土はごく薄くし、発芽まで乾燥させないように毎日水やりする

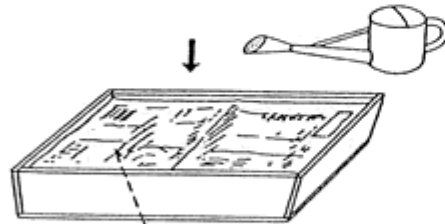


タネが細かいのでハガキにのせて人差し指でたたく

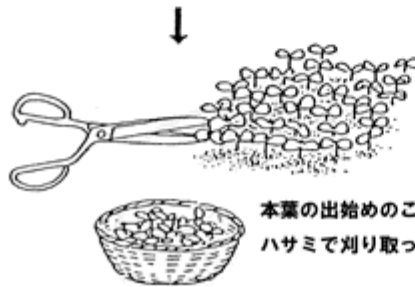
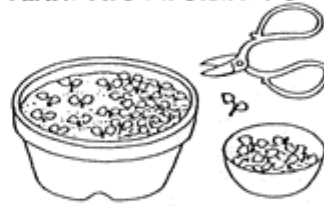
土の表面が1/4見えなくなるぐらいの厚さに種を均等にまきつける。

発芽に光を必要とするので、

覆土はしないで板切れておしつけるだけにする



たっぷりかん水して新聞紙を覆う



本葉の出始めのころ、ハサミで刈り取って利用する